

オープン市場短信 (2013年3月)

2013. 3. 11

◆ 2月のCP市場動向

2月のCP（短期社債）月末残高は、15兆6686億円と前月比3,491億円の減少であった。月末発行残は、昨年5月以降前年同月比マイナスが続いており、2月としては過去最低水準の残高となった。一般事法は前月比微増に止まり、その他金融・金融機関発行分・ABC Pがそれぞれ減少する動きとなった。発行の中心は期内物となっていて、入札で行われた発行案件（約2兆6千億円）の8割強を占めていた。

発行レートの動きについては、3月末償還物では期末特有のプレミアムが付き、案件の多かった期内物ではやや強含み推移となった。一方、優良銘柄や期越物では、投資家ニーズが強く横這いから弱含み出合いとなった。

最上位銘柄では、1~2か月物で0.08%台前半~0.090%近辺の出合い。一般事法では、各ターム共に0.090%前後~0.130%台前半のワイドレンジでの出合いであった。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）案件なし。一般事業法人（a-1格）0.090%~0.13%台前半。
その他金融銘柄（a-1格）0.086%~0.117%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業 態	2月末残高	1月末残高	増減
一般事法	57,619	57,251	368
その他金融	56,687	59,399	▲ 2,712
金融機関	26,880	27,780	▲ 900
（政府系金融	0	0	0）
（銀行等	11,211	12,417	▲ 1,206）
（証券	15,669	15,363	306）
ABCP	15,500	15,747	▲ 247
計	156,686	160,177	▲ 3,491

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

2月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0820% ~ 0.0900%	0.0825% ~ ——	—— ~ ——
a-1(一般事法)	0.0890% ~ 0.1340%	0.0900% ~ 0.0970%	0.0900% ~ 0.1300%
a-1+(リース銘柄)	0.0820% ~ 0.0900%	0.0880% ~ ——	—— ~ ——
a-1(リース銘柄)	0.0920% ~ 0.1070%	0.0920% ~ 0.1140%	0.0860% ~ 0.1170%
a-2	0.1000% ~ ケ 0.25%	0.1150% ~ ケ 0.35%	—— ~ ケ 0.40%

《CPオペ》

CP買入オペは、2月は5日・17日・24日と3回実行され、各回4000億円にてオフアされた。ディーラーが保有する銘柄がオペ応札に合わなかったこともあって発行頻度の高い銘柄を除き、回を追って応札額が減少する動きとなった。しかし、オペ平均落札レートについては、限られた銘柄を確実に売却したいといったディーラーの動きと現先レートが下げ渋ったことから、高止まりとなった。

[2月末のオペ残高・・・2兆2,067億円]

2/28に、日銀からCP買入等オペの3月のオフア金額について、各回4000億円から5000億円に変更すると発表があった。

日銀CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オフア金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
2月5日	2月10日	4,000	8,800	3,932	0.085%	0.088%	43.2%
2月17日	2月20日	4,000	7,545	3,520	0.086%	0.090%	16.3%
2月24日	2月27日	4,000	5,930	3,444	0.081%	0.087%	12.4%

《ABCP》

ABCPの月末残は、1兆5500億円と前月比247億円の減少であった。前年同月比でも、1700億円を上回る減少となっている。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、2月末時点における発行登録企業数は合同会社スターダムが新規登録を行い、1社増加となって497社となった。また、通算の発行企業数は合同会社スターダムが新規発行を行い、534社となった。

《CP現先市場》

現先(S/N)レートは、0.08%台前半～0.09%近辺の出会いであった。

◆ 3月のCP市場動向

3月中のCP償還額は約4兆9700億円で、前年同月の償還額（約5兆1400億円）を下回っている（除く、金融機関発行CP・ABC P）。

今月の発行動向は、例年同様3月決算期末を見据えて、一般事法では3月末償還の発行を行うケースが多くなっており、リース会社を除き期越物発行が少ない状況となっている。3月末に償還を迎える期落ち（約2兆2千億円）が前年と変わらない程度（約20%）の発行に止まるのであれば、3月末残高は昨年実績（13兆7600億円）を下回ることが予想される。

発行レートは、現状では期越え物と期内物ではほぼ同水準であるが、期越物については投資家の購入ニーズが強く、今後逆イールドが生じる可能性もあるだろう。但し、発行頻度が高く発行残の多い銘柄については、期内・期越えを問わず中々低下しづらい動きが続くのではないかと。

一般銘柄では、期内物は0.08%台半ば～0.12%台後半、期越物では0.080%前後～0.13%台半ばの動きを予想する。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物では、0.08%台後半～0.11%台半ばを予想する。

《CPオペ》

今月は、5日（実施済）・17日・26日と、計3回の入札が何れもオファー額5000億円にて実施される予定となっている。

5日のオペは、前回オペに比べ応札可能な銘柄が増加したこと、応札が1兆円を超えるなど売却ニーズが強まったことから、前回オペより按分・平均レートともに上昇する結果となった。次回以降については、17日オファー分は応札可能銘柄如何によるがほぼ横ばい推移を予想する。26日オファー分は、昨年12月オファー分と同様な動きが予想され、低下地合いとなるのではないかと。

月末オペ残高は、2.2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは、先月同様0.05%台～0.08%台でのワイドレンジを予想する。インターバンクレートは、引き続き変化が少なく0.065%～0.075%近辺での推移と思われる。

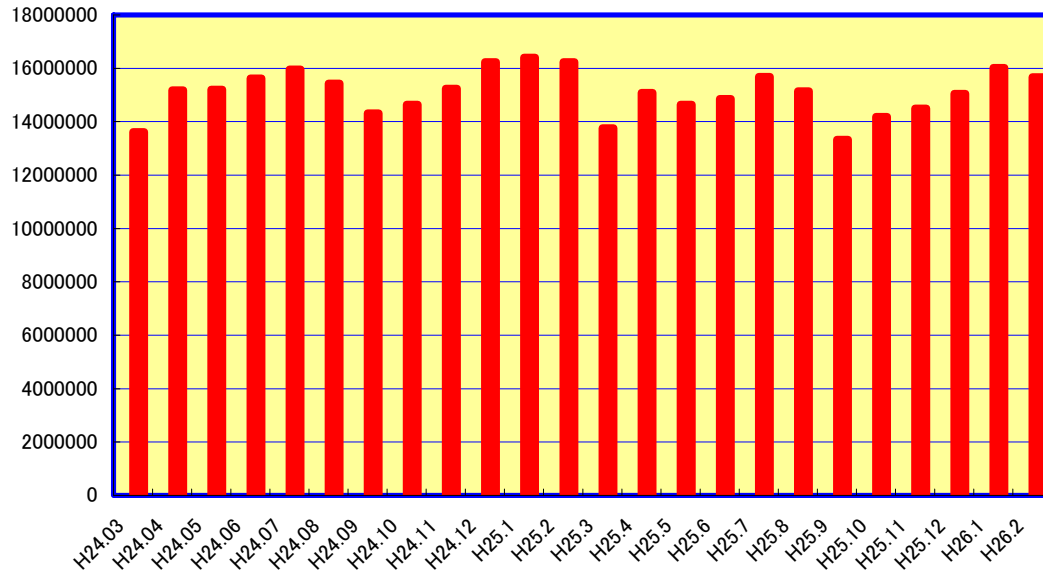
CP現先レートは、期末越えを除き月中は落ち浮いて推移すると思われ、0.08%台中心の出合いを予想する。期末越えでは、運用者が減少することが予想されるため、若干上昇するのではないかと。

参考資料

短期社債月末残高 (24年3月～25年2月)

発行登録企業：495社（発行実績あり531社）

（過去2年間の残高を表示）



2月末発行残高ベスト20

2月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	2月末残高	1月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	816,600	791,600
2	三菱UFJリース	703,000	735,400
3	東京センチュリーリース	610,800	617,400
4	三菱UFJモルガンスタンレー証券	508,400	567,500
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	コンチェルト・レシーバブルズ・コーポレーション	455,610	407,970
7	JXホールディングス	446,000	450,000
8	東 芝	375,000	379,000
9	新日鐵住金	339,000	340,000
10	JA三井リース	334,000	335,000
11	興銀リース	330,500	327,300
12	JFEホールディングス	325,000	297,000
13	日本証券金融	304,000	287,000
14	日立製作所	300,000	350,000
15	みずほ証券	256,300	234,900
16	アルカディア・ファンディング	253,180	260,530
17	芙蓉総合リース	255,700	255,700
18	SMBC日興証券	250,500	195,000
19	エイベックス・ファンディング	247,340	280,950
20	三菱商事	231,000	188,000

参考出所 (株)証券保管振替機構

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性について保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。

上田八木短資株式会社

登録金融機関 近畿財務局長(登金)第243号

大阪本社 〒541-0043 大阪府中央区高麗橋2丁目4番2号

東京本社 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目2番3号

加入協会 日本証券業協会